日本海洋学会　2015年度第2回幹事会　議事録(案)

日時：2015年5月21日（木）13：30~18：00

場所：東京海洋大学品川キャンパス9号館203号室

出席：日比谷会長、神田副会長、市川、伊藤、小埜、小畑、川合、河野、齊藤、鈴村、東塚、山中、事務局毎日学術フォーラム（小野、平坂）

議題：

1. 議事録案確認（伊藤幹事）

2015年度第1回幹事会、2015年度春季評議員会、2015年度通常総会の議事録を一部修正の上承認した。

1. 審議事項
	1. 入退会について（小畑幹事）

2015年2～3月の入退会を承認した。入会1名、退会86名、逝去2名、2015年3月末現在会員数1680名。昨年同時期の会員数1683名から大きな変化はない。会費3年未納者のリストを幹事会MLで回覧し、幹事が分担して意志確認を行うなどの対応をとることとした。

また、会費3年未納者の会員異動表における表記について、庶務幹事が検討して、提案することとなった。

* 1. シンポジウムの後援・協賛等について（小畑幹事）

後援・協賛3件について承認した。

* 1. 募集・推薦等の依頼について（小畑幹事）

公募・推薦の依頼11件、シンポジウム・講演などの案内3件、転載許諾3件について、ML配信その他の対応をしたことが報告され、承認した。

JOの転載許諾について、今後は編集委員長が対応および幹事会での報告を担当することとなったことが報告され、承認された。

* 1. 震災対応HPの改訂について（小埜幹事）

学会ウェブサイト内の震災対応ページの改定案が提示され、承認された。

* 1. 海の研究編集委員の交代について（市川幹事）

小畑編集委員、轡田編集委員の後任として、大木会員と木津会員が編集委員に推薦され、承認した。

* 1. EBSCO社との契約の締結について（市川幹事）

EBSCO社の文献検索データベースに海の研究の掲載論文を加えるため、同社との契約を締結することが提案され、承認した。

* 1. 海の研究投稿規定の改訂について（市川幹事）

海の研究の投稿規定について、共著者の条件の記載、二重投稿禁止を追加するなどの修正案を確認し、承認した。改訂についてMLで会員に周知することとした。

* 1. 「海の研究について」の改訂について（市川幹事）

ウェブサイトに掲載されている「海の研究について」という文章の原著論文の説明文に、「長短にかかわりなく」を加えることが提案された。短い論文を短報として区別しないことを明示するためであるとの説明があり、承認した。

* 1. 海洋観測ガイドライン出版に係る承諾書(案)について（河野幹事）

日本海洋学会が海洋観測ガイドラインを編集、翻訳、印刷、出版することについて、著作者から許諾を得るための承諾書の文面を確認し、一部修正の上承認した。

* 1. 学術著作権協会への電子的複製権の管理委託について（小畑幹事）

学術著作権協会との著作権の管理委託契約の更新を行うこと、これまでの紙への複製に加えて、著作物の電子的複製についても管理を委託することについて審議した。各自書類を確認し、意見があれば5月中に幹事会MLで議論すること、特になければ契約を承認することとした。

* 1. 名誉会員の推薦について（小畑幹事）

来年度の通常総会において名誉会員の推薦を行うこと、推薦基準等については2012年度に改正された幹事会内規に従うことを承認した。

* 1. 第6回日本学術振興会育志賞候補者について（神田副会長）

2名の候補者について説明があり、推薦対象者1名を決定した。

* 1. 共同利用・共同研究拠点へのサポートレターについて（河野幹事・神田副会長）北海道大学、国立極地研究所、海洋研究開発機構による連携ネットワーク型共同利用・共同研究拠点「北極域研究共同推進拠点（仮称）」並びに金沢大学環日本海環境研究センターの共同利用・共同研究拠点としての設置認定について日本海洋学会からのサポートレター作成の依頼があった。いずれも文面を確認の上、承認した。
	2. その他

委嘱状送付について（鈴村幹事）

幹事や各種委員の就任時には個人宛ての委嘱状を送付することが提案され、承認した。幹事会で新規の委嘱が決定した場合にその都度事務局から送付することとなった。その際、「機関の長への委嘱状が必要な場合はご連絡ください」との案内を明記することとした。

書籍出版について（日比谷幹事）

朝倉書店から、「海の温暖化（仮題）」の出版についての打診があった。日本海洋学会として編集員会を組織し、進めることを承認した。また、日本海洋学会刊行に際しては評議員会に諮る必要があることを確認した。

女子中高生夏の学校参加諸経費について（川合幹事）

本年度より、日本海洋学会として女子中高生夏の学校に参加することとなったため、参加諸経費を支給してほしいとの要望があった。本年度は、実務を担当する教育問題研究会に5万円を追加支給することが承認された。来年度からは学会事業として予算に計上することとなった。

大型研究計画について（日比谷会長）

日本学術会議大型研究計画マスタープラン2017についての意見交換を行った。前回提出した内容について、他の学会関係者などから、サイエンスとしての目的が明瞭でないなどの指摘を受けたことが報告された。次回提案に向けて、日比谷会長を中心にたたき台を作成し、幹事会で議論することとなった。

2017年度以降の春季大会の開催について（日比谷会長）

JpGUでは2017年春にAGUとのジョイントシンポジウムを開催する方向で準備中であることが報告され、日本海洋学会員とAGU会員とのジョイントセッションを複数設けて、海洋に関する発表を積極的に行うべきであるという意見で一致した。その際に日本海洋学会春季大会を通常通りに開催するべきか、また今後も年2回の単独大会開催を継続すべきかなどについて議論した。これらについては審議を継続することとなった。

1. 報告事項
	1. 共同利用・共同研究拠点へのサポートレターについて（小畑幹事）

愛媛大学沿岸環境科学研究センター、名古屋大学太陽地球環境研究所の共同利用・共同研究拠点認定へのサポートレターを送付したことが報告された。

* 1. 2016年度春季大会実行委員長への委嘱状について（鈴村幹事）

2016年度春季大会実行委員長へ委嘱状を送付することが報告された。

* 1. 会計（河野幹事）

会長交代に伴う学会管理口座の名義変更ならびに大会用新口座の開設を行ったことが報告された。大会用口座運用について、要請に応じて会計幹事が大会事務局の口座に振り込みを行うことを確認した。

* 1. 編集
		+ 1. JO（石坂編集委員長代理日比谷会長）

順調に発刊している。

* + - 1. 海の研究（市川編集長）

順調に発刊している。必要に応じてアブストラクトを英文校閲に出すことにしたとの報告があった。

* + - 1. JOS-NL（代理日比谷会長）

秋季大会の開催要項、幹事からの一言などを掲載予定である。

* 1. 研究発表（鈴村幹事）

大会に係る業者との契約について、実行委員会から幹事会（東塚担当幹事）への移行作業を行っていること、次回大会において学部生は会員・非会員問わず参加無料となること、シンポジウム提案者にフォーマットを送り、要旨集に掲載するプログラムの形式統一を図ることが報告された。また、来年度春季大会からのセッション制の導入に関して、若手からのセッション申請を優先的に採択してほしいなど、これまでに学会に寄せられた意見について、実行委員会と幹事会とで議論を始めること、シンポジウムの有料化については時間をかけて検討すること、大会HPの契約も来年春季大会からは幹事会が行うことを確認した。

* 1. 広報（小埜幹事）

委員会メンバーを検討中であること、HPの更新維持に協力していただいていた会員が退会したため、今後は単価契約する方針であることが報告された。

* 1. 環境（鈴村幹事）

青い海助成について募集を開始していないため、できるだけ早く募集を始める予定であることが報告された。

* 1. 教育問題研究会（伊藤幹事）

地学オリンピック国内選抜対策に出前授業の斡旋活動を開始したこと、11月のサイエンスアゴラに参加する予定であることが報告された。

* 1. JpGU（日比谷会長）

5月24日～28日、幕張メッセにて大会が開催される。26日には「Geoscience Ahead」と題して AGU、AOGS、EGS、JpGUによるシンポジウム、若手のキャリアパスについてのセッションなどがあることが報告された。

* 1. 若手支援（神田副会長）

若手集会助成の公募を開始した。6月8日が締切であることが報告された。

1. その他

ウェブサイトについて（日比谷会長）

日本海洋政策学会のHPとの相互リンクの提案があり、広報委員会が対応することとなった。また、市川幹事から、教育問題研究会で一般向けウェブサイトの作成を担当することも可能であるとの意見があり、広報委員会で検討することとなった。

衛星リモートセンシングタスクフォース連絡委員会（日比谷会長）

AMSRの後継機の必要性について資料が提出されたことが報告された。今後、日本海洋学会として資料が提出されたのか確認することとなった。また、日本海洋学会として資料等を出す際には幹事会への報告を必要とすることが申し合わされた。

次回幹事会：7月開催予定。日時および場所は今後調整。